

学部優秀部門奨励金

(知能情報学部 2020年3月卒業)

学生生活・今後について

私は部活もサークルもしておらず、学校へ来て、授業を受け、帰る、という平坦な生活を送っていました。活動を何もしていなかったため成績だけは上を目指そうと授業に毎回出席し、テストにも力を入れ特待生として今回の制度に採用されました。この制度に採用されたことによりこれまで以上に何かに力を注ぎたいと思うようになり、大学院へ進むことを決めました。ゼミの友達や先生に助言をいただきながら、他大学院へ進むこととなりました。また、ゼミの中ではIVRCというVRの国際大会を目指し作品を作りました。生理痛に着目した作品となっており、女性にしか体験できない月経痛を、腹部へ電気を流すことで再現し、月経が流れ出る出血感も足に温度提示をすることで再現しました。この作品で予選・決勝に出場し、賞までいただくこととなりました。またCGコンテストと呼ばれるところにも同じ作品を出したところ、こちらでも賞を頂けました。この大会やコンテストを通して得られたものは賞という目に見える形での結果ですが、部活やサークルをしてない私にとっては、グループで1つのことに打ち込むことで他愛もない会話をしたり、異なった価値観の人たちの考えを知ることができたり、人同士で交流できたことがとても大きかったです。私は人と話したり、遊んだりすることが苦手なほうだったので、全く知らなかった人とも大会の会場で仲良くなったりして、ただ授業のみを受けに大学へ通うだけでは知る事の出来なかった経験でした。

大学院に行っても新しい人ばかりで0からのスタートではありますが、あまり内気にならず、いろんな人と交流していきたいと思います。また、これまで通り勉強面でも力を抜かず上位の成績を目指していきたいと思います。今の目標は、資格を1つも持っていないため、何か自分の強みとなる資格を取得したいです。それに加え、大学院受験の際にTOEICを受けたのですが、その時の目標としていた点数は超えられたので、更に上を目指し、受験時の目標点よりもっと高得点を取得できるようになりたいです。また学部生の時はほとんどアルバイトをしていなかったため、4年生になりアルバイトを始めましたが卒業研究などの忙しい時期と、アルバイトでは両立がなかなか難しく私の処理能力がまだ不慣れであり、効率的ではなかった気がします。大学院に通うため、やはり金銭面では負担が大きいのでアルバイトはできる限りたくさんし、少しでも負担を軽減したいと考えています。そのため、複数のことが同時に処理できるようになりたいです。今のアルバイトは塾の講師をしています。前にしていたコンビニの深夜のアルバイトよりも自分に合っていて、とても働きやすいです。最近はかなり慣れてきているので余裕が出てきました。生徒の中には参考書をたくさん印刷し、よく質問してくれて、夜遅くまで勉強をしている子がいます。こういった生徒の頑張りを直接見ていると、私も何か一生懸命になれることをしなければ、という気持ちになり助けられています。大学院でのアルバイトも自分にとって重荷にならず、かつプラス要素になるようなお仕事をしたいです。

おそらく今までよりも忙しくしんどい時のほうが多いと思いますが、学生生活で得た知識や経験、交流をこれからの生活にも活かしていき、残り2年間の学生生活を楽しまたいと思います。